

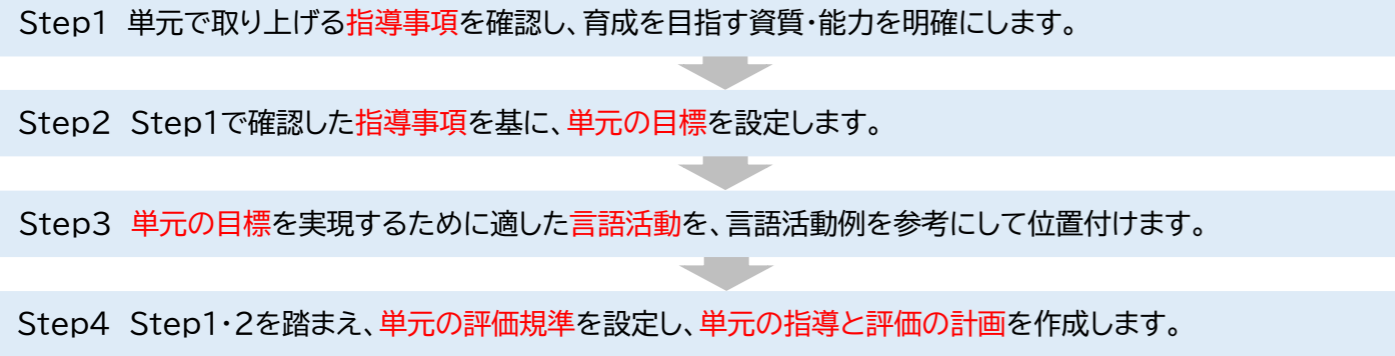
# 単元デザイン FIRST STEP —中学校国語科—

## 1 単元デザインは何のため？

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、単元の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



## 2 単元デザインの手順



### 単元デザインの具体(例)

第2学年 A 話すこと・聞くこと  
単元名 魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする「国語2(光村図書)」

#### Step1 単元で取り上げる**指導事項**を確認し、育成を目指す資質・能力を明確にします。

- 各学校で作成した年間指導計画を基に、単元で取り上げる指導事項を確認します。  
\* 育成を目指す資質・能力は中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編(以下、学習指導要領解説)の指導事項に示されています。

指導事項	<p>【知識及び技能】「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」 ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。 【思考力、判断力、表現力等】「A 話すこと・聞くこと」(1) イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。 ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 (学習指導要領解説 p.74, 86)</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### Step2 Step1で確認した**指導事項**を基に、**単元の目標**を設定します。

- 学習指導要領解説の各学年の目標や内容、生徒の実態及び既習事項等を踏まえて設定します。

生徒の実態	指導事項	既習事項
1人1台端末でスライドを作ったことはあるが、もう少し視覚的にも伝わりやすくなるように工夫ができるようにしたい。	【知識及び技能】では(1)のア、【思考力、判断力、表現力等】では「A 話すこと・聞くこと」の(1)のイとウを取り上げよう。	これまで生徒は話の構成を考える学習や、資料を活用して表現を工夫する学習に取り組んでいる。

### 単元の目標

- (1) 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。  
(2) 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。  
(3) 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。  
(4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
- 【知識及び技能】(1)ア  
【思考力、判断力、表現力等】A(1)イ  
【思考力、判断力、表現力等】A(1)ウ  
【学びに向かう力、人間性等】

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」p.2、国立教育政策研究所「[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)」pp.37-38 参照

#### Step3 **単元の目標**を実現するために適した**言語活動**を、言語活動例を参考にして位置付けます。

- 単元で取り上げる指導事項との関連や、生徒がどのような疑問をもつか、どこに関心をもつかなどを考えながら教材を読みます。
- 教材の特質を生かし、単元の目標を実現するために適した言語活動を、学習指導要領解説の言語活動例を参考に考えます。

言語活動例	A(2)ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。 (学習指導要領解説 p.86)
-------	---------------------------------------------------------------------

何をテーマにプレゼンテーションの学習をしようかな。町内に関するのなら、第1学年の総合的な学習の時間で町内を紹介するプレゼンテーションに取り組んでいるから、多くの情報を知っている。

聞き手を設定して相手意識をもち、プレゼンテーションを組み立てることは、本単元で育成を目指す資質・能力を身に付けるために適しているな。では、どのような相手に、どのような目的でプレゼンテーションを行おうか。

町外出身の学級担任に実際に訪れてもらえるように町内のおすすめスポットを提案するという設定なら、必然性があり、生徒が主体的に取り組めるだろう。

### 言語活動

学級担任に町内のおすすめスポットを提案する。(関連:【思考力、判断力、表現力等】A(2)ア)

- 言語活動を位置付けたら、「単元名」と「生徒に示す単元の目標」を設定します。

生徒がどのような単元なのか分かるように、単元名に「プレゼンテーション」という言葉を入れよう。

生徒が、プレゼンテーション自体が学習の目的と思わないように、「プレゼンテーションを行うことを通して話す力を伸ばす」という目的を、単元の目標で提示しよう。

### 単元名

魅力的な提案をしよう  
資料を示してプレゼンテーションをする

### 生徒に示す単元の目標

この単元では、**話の構成を工夫したり、資料を使ったり、言葉や表現に気を付けたりしながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す力を伸ばす**学習をします。  
具体的には、学級担任の先生に、町内のおすすめスポットについてプレゼンテーションをすることに取り組みます。先生に、「行ってみたいな」と思ってもらえるような魅力的な提案をしましょう。

→詳しくは、国立教育政策研究所「[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)」p.39、各事例参照

Step4 Step1・2を踏まえ、単元の評価規準を設定し、単元の指導と評価の計画を作成します。

□ 単元の評価規準を設定します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 言葉には、聞き手の行動を促す働きがあることに気付いている。(1)ア)	① 「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) ② 「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	① 自分の考えが分かりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」pp.4-7、国立教育政策研究所「『[指導と評価の一体化](#)』のための学習評価に関する参考資料」巻末資料参照

□ 単元の指導と評価の計画を作成します。

・単元の目標及び評価規準を踏まえ、\*各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階で、どの評価規準に基づいて評価するかを決定します。

・どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に評価するか、具体的に考えます。

単元の指導と評価の計画

単元の始めに、単元の見通しをもつ場面を設定します。

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や計画をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○話の構成を工夫することや提示資料作成のポイント、聞き手を意識した言葉や表現について考える。 ○聞き手のことを考えて、提案内容とアピールしたい点を決める。	・教科書や教師が作成したプレゼンテーションの例を示すことで、考えをノートに記入することができるようにする。 ・聞き手の興味・関心や町に関する知識量を確認し、提案内容とアピールしたい点についてグループで検討することができるようにする。	本時は、A(1)アに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としないことから、本単元の評価には含まない。
2	○話の構成を工夫しながら進行案を作成し、役割分担や時間配分を決める。 ○自分が担当する部分の内容の詳細を考え、発表メモを作成する。	・第1時の学習で決めたアピールしたい点が効果的に伝わるようにグループで話し合いをすることで、話の構成を工夫し、進行案を作成することができるようにする。 ・必要に応じて再度情報を集めてよいことを伝えるとともに、発表メモには要点を記入するように指示し、読み上げるための原稿にならないようにする。	【思考・判断・表現】① 観察・ノート・進行案 ・ここでは、アピールしたい点が効果的に伝わるように話の構成を工夫しているかを確認する。
3	○提案内容が分かりやすく伝わるような提示資料を作成する。 ○練習を通してプレゼンテーションの改善を図る。 ○プレゼンテーションを組み立てる際に考えた工夫を整理する。	・第1時の学習で考えた提示資料の作成のポイントを示すことで、提案内容が分かりやすく伝わるような表現の工夫を考えることができるようにする。 ・聞き手を意識した練習を行うように促し、話の構成、言葉や表現を改善することができるようにする。 ・プレゼンテーションを組み立てる際に考えた話の構成や提示資料、言葉や表現の工夫をノートに整理することで、第4時のリハーサルの前に説明できるようにする。	【思考・判断・表現】② 観察・提示資料 ・ここでは、提示資料を用いて、提案内容が視覚的にも伝わりやすくなるように工夫しているかを確認する。
4	○他のグループとプレゼンテーション発表会に向けたリハーサルを行い、相互にアドバイスをを行う。 ○リハーサルを振り返り、プレゼンテーションの改善について検討し、修正する。	・リハーサルの前に、話し手はプレゼンテーションを組み立てる際に考えた話の構成や提示資料、言葉や表現の工夫をそれぞれに目視してアドバイスをすることを確認する。 ・聞き手からのアドバイスを基にリハーサルを振り返るように促し、アドバイスシートを効果的に活用するようにする。 ・必要に応じて進行案や発表メモ、提示資料を修正するように促す。	【主体的に学習に取り組む態度】① 観察・進行案 ・ここでは、リハーサルを通して、聞き手に分かりやすく伝わるようにするためにプレゼンテーションの改善点について検討し、表現の工夫を考えているかを確認する。
5	○プレゼンテーション発表会を行い、よかった点や改善点について考える。 ○プレゼンテーションの振り返りを基に、単元全体の学習を振り返る。	・学級担任にプレゼンテーションを行うことで、聞き手を意識した言葉や表現になるように気を付けることができるようにする。 ・プレゼンテーションを聞くときの視点を示すことで、気づきをノートに記入することができるようにする。	【知識・技能】① 発表・ノート ・ここでは、聞き手を意識して言葉や表現を工夫しているかを確認する。
		・振り返りの視点を示すことで、本単元で学んだことを、今後の学習でどのように生かしていくのかについて考えることができるようにする。 【振り返りの視点】 ①単元の目標を達成するために頑張ったこと ②単元で工夫しようとしたが十分ではなかったこと ③今回学んだことを、これからどのように生かしていくか	

単元終末に、単元の学習を振り返る場面を設定します。

1単位時間の授業の中で、生徒が、自分の考えを整理したり、考えたことについて話し合う準備をしたりするために、書く活動を設定します。また、生徒が考えなどを広げたり深めたりすることができるようにするために、目的を明確に示して話し合う活動を設定します。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習指導案](#)」、「[授業実践のまとめ](#)」参照

(注) \*各時間の具体的な学習活動

各時間の具体的な学習活動を構想する際には、それぞれの領域の学習過程を踏まえることが重要です。第2学年の「話すこと・聞くこと」の「話すこと」の学習過程は右に示すとおりです。なお、本単元で重点を置く指導事項は、イトウになります。

話すこと	学習過程		指導事項
	話題の設定	ア	目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集 内容の検討		
	構成の検討	イ	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。
	考えの形成		
表現 共有	ウ	資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。	

学習指導要領解説 p.27, 30を基に作成

□ 評価の実際と手立てを想定します。

・それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイントや「十分満足できる」状況(A)の例、「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立てを想定します。

単元の指導と評価の計画の第4時の評価規準と判定基準

本時の評価規準【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
○リハーサルを通して、聞き手に分かりやすく伝わるようにするためにプレゼンテーションの改善点について検討し、表現の工夫を考えている。 【観察・進行案・単元の計画表の記述】	「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント ・リハーサルを通して、聞き手に分かりやすく伝わるようにするためにプレゼンテーションの改善点について検討し、話の構成や提示資料、言葉や表現について気付いたことや考えたことを進行案に記入しようとしている。 「十分満足できる」状況(A)の例 ・(B)に加えて、他のグループの生徒や教師に助言を求めたり、辞書を引いて言葉の言い換えを検討したりするなどしている。 「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て ・同じグループの生徒の進行案や提示資料を参考にして、自分の進行案や提示資料の課題を把握できるようにし、聞き手を意識した改善ができるように具体例を示す。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」各事例、国立教育政策研究所「『[指導と評価の一体化](#)』のための学習評価に関する参考資料」各事例参照

もう一工夫!

単元デザインを踏まえ、単元の導入では、単元の目標や計画を示し、生徒が単元の見通しをもつことができるようにします。単元の目標や計画を示す方法として、以下のような単元の目標や単元の流れを示した単元の計画表を作成して、生徒に配付することが考えられます。

単元の計画表には、本時の学習の振り返りを記入する欄を設けます。振り返りを行う際には、以下のように振り返りの視点を示すようにしましょう。

**第4時の振り返りの視点(例)**

①本時で学んだこと  
②これからの学習で頑張りたいこと

単元の計画表には、単元全体の学習について振り返りを記入する欄を設けます。振り返りを行う際には、以下のように振り返りの視点を示すようにしましょう。

**単元全体の学習の振り返りの視点(例)**

①単元の目標を達成するために頑張ったこと  
②単元で工夫しようとしたが十分ではなかったこと  
③今回学んだことを、これからどのように生かしていくか